

尼崎のニコニコ子育て情報誌

ビギナス



聞いてみよう！

育児のギモン



2P 松本尼崎市長へ聞いてみよう！

6P 子ども歳時記・子育て親育ちエッセンス

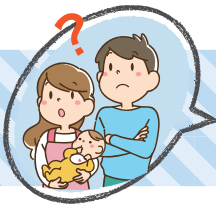
7P BOOK! BOOK! BOOK!

8P 尼崎市からのお知らせ



あまがさきキッズサポーターズ

〈ビギナス〉= begin + us = わたしたちからはじめましょ！



育児のギモン

文部科学省での経験を活かして、2018(平成30)年から尼崎市教育長として3年間ご尽力され、2021(令和3)年に尼崎市長に就任された松本眞市長の子育てに対する思いを聞かせていただきました。



子育て支援について語られる
松本 眞尼崎市長

令和5年度に策定した【あまがさき子ども・子育てアクションプラン】※1は、子育てしている家庭を今まで以上に支援する施策です。このプランに対する松本市長の想いを教えてください。

市長になる時の公約で「子ども子育て支援の充実」を1つの柱にかかげていました。この公約を任期中に行うためには項目を決めて、それぞれの項目に対しての予算を確保し、市役所全体で共有していくことと、市民の皆さんが見通しを持てることが大切です。市長着任後、1週間立たないうちに関係部局をお願いして内部で様々な材料を確保しながら議論をしてもらい、令和5年11月に【あまがさき子ども・子育てアクションプラン】※1を出させてもらいました。

任期中に行う「子ども子育て支援」に向けた具体的なメニューを明確にしたものです。プランを策定して満足するのではなく、状況に応じて更新して運用していこうと思っています。

松本市長がこのアクションプランにより実行したい主な内容とは？

私自身も子育て世帯で自分の子育てを通じて感じることもあり、各市の子育て支援を参考にしながら行っていく必要があると思っています。キッズサポーターズ※2のみなさんも色々サポートされていて身を持って感じていらっしゃると思いますが、子育てには色々な負担があり、給食費や医療費の負担など経済的な負担だけが注目されがちです。現状はそれだけではなく、核家族化している中で、仕事をしながらの時間の確保やおじいちゃんおばあちゃんに手伝ってもらえないという家族が、尼崎市には多くなっています。また、慣れない子育ての

中で心理的に自分で抱え込んでしまっている場合もあります。尼崎市として子育て支援をするためには、経済的負担・時間的負担・心理的負担の3つの負担の軽減に向けて、すべてを包括的に支援できるように取り組んでいきたいという思いで、この「アクションプラン」を実行することにより、子育てのサポートができるようにしたいと思っています。

子育て支援を通じて社会に求めることは？

ポリシーとして思っていることは、子育て支援とは対象が子育てをしている方だけではなく、子育て支援を通じて社会が豊かになり、これからの社会が持続的に発展していくことを目指していきたいと思っています。世代により色々な考え方があると思いますが、これからの働き方改革は柔軟性を持つことが大切です。男性が朝から晩まで土日も含めて働き続けてなかなか家に帰ってこないというのではなく、例えば夫婦2人で子育てをなさる場合、基本的には夫婦で協力し合うことが大切で、子育てをしながら仕事をするという、両立できる社会が望ましいと思います。働き方改革は、企業の協力も必要なため難しいところもありますが、せめて市役所で出来るところはサポートし、働いている方々に対する支援を強く意識したプランにしています。

尼崎市の場合は、尼崎で生まれて地元で育っている方もいますが、他府県から引っ越して来られた方がたくさんいます。そういう方たちも含め、働くことも子育てでも応援できる街として、魅力的な尼崎の立地条件など尼崎の強みを引き出せるコンセプトを40のメニューにまとめ、アクションプランとして掲げています。

アクションプランを具体的に実施するにあたり、始まったばかりで利用者側の希望に添えない場合があるようなことを聞いています。施策として計画していても施設や人員不足のため、実行が難しい場合があることに関しては、どのように感じていますか？

プランの考え方として、子育て世帯全体に対しての子育て政策と、環境により子育てが困難な家庭など個別に対応していく政策があり、その組み合わせが大事だと思っています。

例えば全体というのは、色々な家庭がある中でしっかりと街の魅力を高めて、多くの方に尼崎に住んでいただくということが尼崎にとって大事です。というのは、今までは一人暮らしだった方が結婚して尼崎から出ていってしまうということを繰り返していました。ファミリー世帯が尼崎に住み続けて、成長してもらいたいということを大切にしているため、全体の取り組みとしては、街の利便性を高めた上で、保育料や子ども医療費の負担軽減、産前産後の応援の充実など様々な取り組みを進めることが大事だと思っています。



子育てが困難な家庭には、どのようなサポートがありますか？

環境により子育てが困難な家庭に関していうと、まさに、やんちゃんこさん※3のような機能が必要で、昔でいうと近くにおばあちゃんがいたり、地域の方とのつながりなどで、子育てに協力してもらえていましたが、今は自分ひとりでしないといけないという辛さから、子育てしにくい場合があります。そのため、制度として人為的に昔の包括的なしくみを作っていく必要があります。やんちゃんこさんのような地域子育て支援事業として、あらゆる事業を利用してもらってサポートしていきたいと思っています。

また、地域の里親を活用したショートステイを実施し、里親支援をこれから進めていきたいと思っています。尼崎はまだまだ里親さんが少ないです。関心はあっても受け入れはハードルが高いという方もいるため、1日ずつなど体験的に試みて、少しずつ日数を増やすなど丁寧な対応をして質を高めていく必要があると思います。

児童相談所※4の設置(令和8年度開設予定)も見据えて、徐々に強化をしていきたいと考えています。一つひとつの取り組みを地道に行っていくことで、解決していく必要があると思っています。

松本尼崎市長に聞いてみました！

松本市長ご自身が共働きで、3人のお子さんの子育てで奮闘中です。ご自身の子育て体験を尼崎市の子育て支援につなげたいという熱い想いを語ってくださいました。

働く父親として、お子さんと接する時間をどのように工夫されていますか？

小学校6年生・4年生・5歳の息子を育てて、やっと子育てに慣れてきました。

妻の母が他界し、私の母も長い間脳梗塞を患っていて最近他界したため、父母に全く手伝ってもらうことがなく、東京でずっと夫婦2人で子育てをしてきました。

1人目の子の時は、妻は1年間育休をとりました。育休が終わり仕事に復帰する時、当時は保育園が本当に見つからなくて、近くの認可外の保育園に預けました。夫婦共に通勤に1時間かかり、夜12時以降に帰宅することが当たり前前の職場でしたので、どちらかが迎えに行けるように仕事のやりくりをしていました。妻は職場で搾乳して冷蔵庫に保存して飲ませていたことを思い出します。



2人目の子の時、妻は7ヶ月の育休をとり、私も1月～3月の3ヶ月間、育休を取得して子育てに専念しました。生まれたばかりの赤ちゃんは寝て起きての繰り返しなので、起きたらオムツを替えて授乳し、午前中30分くらい日の光を浴びるために散歩するという生活でした。あとは、食事の準備、買い物、そして長男の保育園の送り迎えをして、夜に寝かしつけるという1日で、そんな生活をしていたら、1日誰とも喋っていないと気づきました。また、平日に働き盛りの男性が街中を歩くのは結構恥ずかしいな、と当時は感じた記憶があります。

3番目の子の時は、妻は4ヶ月の育休をとって職場復帰しました。私は尼崎市教育長のため休めませんでしたが、文科省時代のような深夜労働がなくなったため、子育てをしながら朝の支度や夕ご飯の準備などができました。夫婦それぞれのライフステージの中で、お互いに協力しあって、仕事・家庭・子育てをなんとか乗り越えてやってきた感じです。

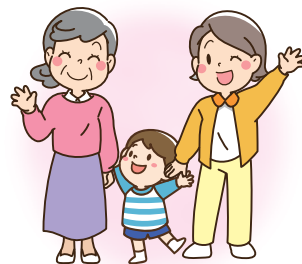
私が育休をとって感じたことがあります。お母さんたちが子どもを幼稚園や保育園に送ったあとに、公園やファミレスでおしゃべりをしている場面を時々見ました。それを見て、お母さんたちが情報交換をしながらコミュニケーションを取り、悩みを共有しあうことは大事なことだなと感じました。

共働きでの子育ては本当に大変だと思いますが、どうやって乗り越えてこられましたか？

私の場合はファミリーサポート※5を利用し、毎回おなじみの方が担当してくださったおかげで、私の母親以上にきめ細やかに助けていただきました。引っ越すごとに、共働きの私たちの家庭の状況を理解してくださる方が自然と手を差し伸べてくださったので、仕事をしながら子育てができたのかなと思っています。

尼崎に来て教育長になった時は、子どもが3人いたのでファミリーサポートを利用したところ、今まで以上に地域ぐるみで手厚くサポートをしてくださいました。子どもを迎えに行くと、地域の方が子どもと公園で遊んでくれていたということもありました。これは子どもにとっても大事な経験だったと思います。このように周りの方のサポートに頼らないと、2人とも仕事をしながらの子育てはできなかったかなと思います。

子育て中のお母さんへのメッセージとして、周りの人や利用できる尼崎の制度を頼ってほしいです。子育てを経験したおじいちゃん・おばあちゃん・お父さん・お母さんは、ご自身の子育ての悩みや苦労などを知っているので、若い方を応援しようという気持ちをみなさんが持ってください。他のお母さんたちとコミュニケーションが取りにくい場合は、悩みを一人で抱え込まないで、頼ってほしいです。みんな助けてくれます。



市長になられてからの生活はどうか？

今、市長になり尼崎市役所の近くに住んでいます。妻は万博公園方面が職場のため、妻には申し訳ないと思っています。妻は私より早めに家を出て仕事に行くため、私が朝の食事の準備や家事、子どもの送りを担当しています。私が夜に仕事がある時は、妻に子どもを迎えに行ってもらい、私が夜に仕事がないときは迎えに行き、夕食の準備をするという役割分担をしながら、なんとか毎日を過ごしているという感じです。

土日も予定があり、子どもと接する時間はあまりありませんが、日々の生活において朝夕の日常生活をしている中で、家事や子育ては上手に時間を使えるようになってきたかなと思っています。ここに行き着くまでは、やっぱり大変でした。



※1 あまがさき子ども・子育てアクションプラン



※2 キッズサポーターズ

尼崎市子育て支援情報誌「ビギナス」を作成しています。

※3 やんちゃんこ

平成3年に発足した「やんちゃんこ」は、つどいの広場や子育てサークル、認可外保育所、発達特性の子どもの支援など、さまざまな子育て支援事業を行っています。

※4 尼崎市児童相談所

尼崎市は令和8年度に児童相談所を「あまがさき・ひと咲きプラザ」に開設予定。尼崎市では、社会全体で子どもを見守り、またその家庭を支える支援体制を構築します。

※5 ファミリーサポート

保育施設等への送迎や保育施設の時間外・放課後・保護者の外出時・急用時に子どもを預かるなど、子育てを地域で支援してくれます。



育児のギモン

ご自身の子育てで大切にされていること、心がけていることは何ですか？

よく寝ること、よく食べることぐらいしかできていないですね。

早寝・早起き・朝ごはんという言葉がありますが、出されたものを全部食べなくてもいいので、3食きちんと食べてもらうことが大切かなと思います。ご飯とおかずと汁物を食べてもらえる習慣をつけることは心がけています。長男が小学6年生で、早いかな遅いかな分かりませんが、夜9時半に寝るようにして、睡眠時間を十分にとることを心がけています。寝坊することは一度もないですし、朝起きて眠そうな顔をすることも今のところないので、生活リズムは大事だなと思って気をつけています。

マナーとか礼儀とか色々ありますが、そこまでは親としては時間がないため、ある程度自由に過ごさせています。他の家庭から見ると、えっと思うところもあるかもしれませんが、食べることを寝ること、そして遊ばせることはできるだけ大事にしています。



市内の公園などは行かれましたか？

市内の公園は、もちろん行きました。

教育長に就任したとき、尼崎に来たばかりだったので市内をどのように知ろうかということがミッションの一つでした。その時に考えたことは、子どもを連れて遊びに行きながら市内を知ろうと思い、近松公園や農業公園、西武庫公園などあらゆる公園を周って、子どもを遊ばせながらその地域の雰囲気を知るというプロジェクトを自分で作って、あちこち回りました。小さい公園は全部は行けていませんが、主要な公園はほとんど行きました。農業公園と田能遺跡と伊丹になりますが空港近くのスカイパークはゴールデンコースで、よく行きました。

農業公園はバラなど季節の花がきれいですよね。



西武庫公園

そうですね。

長男が昆虫が好きなので自然のある公園に行くことが多かったです。尼崎の公園の良さは、管理が厳格にされていない所です。例えば東京の大きな公園では、雑木林もあり、いっぱい咲いている花を見ることはできるのですが、ロープが張ってあり、道が整備されていて侵入禁止になっている所がたくさんあるんです。でも、尼崎は侵入OKなところが多いので、子どもの好きな生き物が隠れていたり、そのような空間に入れることは、子どもの教育にはいいなと感じています。

子どもたちにSNSを使わせることへのお考えをお聞かせください。

実は私も親として子どもにYouTubeを見せたりすることもあります。親として力不足なところがありますが、上手に付き合っていくしかないのかなと思います。とても難しい問題ですね。

携帯電話を持つ子どもが低年齢化しています。持たせないということは、それぞれの家庭でもできることかもしれませんが、全体の雰囲気の中で、いつまでも持たないということは、お友だちを作ることが難しくなるなど問題が出てきてしまうこともあると思います。強制的に持つてはいけないということが難しい時代になってきていると思うと、親子でしっかりと話し合っただけで決めて、運用していくしかないと思います。

だからといって2時間も3時間もしてもいいのかとなると、健康にもよくないし脳にもよくないし、睡眠時間が取れなくなります。例えば「1時間にしましょうね」とか「リビングでしか使えないようにしましょうね」などというルールを各家庭で子どもとしっかり話し合うことが大事で、そうすることしか対策はないのかなと思っています。

スマホ＝ゲーム機になっても困りますし、乳幼児をあやすためにスマホを使う方もいらっしゃるみたいですが、それについて市長の御意見をお聞かせください。

親としてちょっとドキッとする話ですね。

小学生くらいまでに前頭葉が発達すると思うので、どうしても座っていてほしい時に「動き回ったらダメですよ！」と伝えると我慢できるとは思います。ただ、3歳や4歳の子どもの場合、我慢ができないことが多いので、どうしても座ってほしい状況の時、例えば新幹線や電車に乗る時や大人向けのレストランに行く時(行かないのが一番いいのですが、どうしても行かないといけない時)など、じっとしてほしいためスマホに頼ってしまうこともあります。なので、スマホを使うことを否定することもできない場合もあるのですが、大人が自制をしていくしかないのかなと思いますね。



松本尼崎市長に聞いてみました！

最後に、子育て中のパパやママにメッセージをお願いします。

子育ては、特に一人目の子どもの時はどうしても神経質になりすぎてしまうことがあると思います。例えば、私たちもそうだったのですが、赤ちゃんの成長が遅いとか、母乳が出ないということ指摘されてお母さんが悩んでしまったり、子どもがご飯を食べないと何か問題があるのではないかと、言葉が遅いと何か知的な問題があるのではないかなど、いろんな心配が出てくるんです。そのこと一つひとつを調べると、余計に気が滅入ってしまうことがあると思います。特に一人目は仕方がないと思うのですが、なんとかかなと思ってあまり気にしすぎないようにして、子どもは勝手に育つというくらいに考えてもらった方が、思い悩まずにいられるのではないかなと思います。



実は、私の長男は低出生児で生まれて1700gくらいだったんです。生まれてすぐにNICU(新生児集中治療室)に1週間くらい入り、退院までにだいぶ時間がかかったのですが、それでも今は6年生ですくすくと元気に過ごしているので、気にしなくてもいいのかなと思います。

尼崎はやんちゃんこさんのように、さまざまな子育ての拠点であるつどいの広場や保育園もあるので、そのような所へ行くと、色々な子育てのアイデアを教えてもらえます。困ったときは、子育て支援施設に頼ることは大事なことです。ファミリーサポートなど制度を上手に使うって、一人で抱え込まないでほしいなと思います。

上手に制度を使うということは、大切なことですね。働いているパパへのメッセージはありますか？

夫婦2人で子育てをした方が、豊かな生活になると思います。研究論文の中で、子育て参加率や家事参加率がすごく低いと熟年離婚の割合が高くなるというものがあります。逆に言うと、パパが子育てや家事を行っている、と熟年離婚の割合が低くなるのです。これはきっとそうだなと思っています。やはり将来は2人になるので、そのために一生懸命2人で協力して子育てと家事をすることは自分に必ず返ってきますので、頑張ってください。

働くパパが子育てにもっと参加できるようにするには、どうしたらいいでしょうか？

パパが子育てに参加するために企業側にも強くお願いしたいことは、これからはお父さんもお母さんも子育てをする時代なので、大きい企業であっても小さい企業であっても働き方に配慮をしていただきたいなと思います。

尼崎では、今年小学校の児童ホームを午後6時から7時に伸ばしましたが、東京では午後8時半や9時までで夜食のある所があります。私も午後8時に迎えに行くこともありました。ただ、これが子どもにとって健康的なのか？と思うので、保育の時間を午後8時までにするのではなく、働く側で午後6時や7時に家に帰られる努力をしてもらうことが大事で、市長としても各企業のみなさんに伝えていかないと、子育て支援ができないと考えています。

もちろん夜のお仕事やシングルマザーでお昼に働くことができないなど、各家庭の事情があると思いますので、夜の預かりに対して全面的に否定はしませんが、多くの企業ができるだけ働く親に対して配慮してもらいたいと強く思っています。

松本市長から子育て中のパパ・ママへのメッセージ

悩みを一人で抱え込まないで、

周りの人や利用できる尼崎の制度を頼ってもらいたいです。

取材を終えて…

子育てを体験されている松本市長だからこそ、子育て世帯が望んでいること、困っていることを実感されていることがよく分かりました。市長になられてすぐに策定された【あまがさき子ども・子育てアクションプラン】は、一つひとつ丁寧に取り組まれています。このプランを実行していくことで、働くことも子育てでも応援してくれる尼崎市に住んでいてよかったと、みんなが思える時がくる日も近いと感じました。



松本市長のおまけ情報です！

取材をさせていただいたのは、令和6年7月で子どもたちは夏休みでした。この日は、昼ごはん用に子どもたちが大好きな焼きそばを朝から作ってこられたそうです。どこの家庭も夏休みの昼ごはんが大変だ！と言っているの、同様の大変さ(笑)を感じていらっしゃるのかな～と思いました。

作るのはいいのですが献立を考えるのが大変と言われていました。買い物もスーパーによく行っているそうです。買い物をすることで物の値段も分かるのでいいことかな～と前向きに思っているとのことでした。

春の植物を楽しもう

春は芽吹きと花の季節です。気温の上昇とともに新芽が顔を出し色どり豊かに花が咲きはじめます。土手や畑の道端ではヒメスミレやイヌフグりが愛らしく瑠璃色に咲き始めています。野原の中でもよく見かけるセイヨウタンポポには利尿作用があります。野原に生える多年草、関東タンポポの根はコーヒーに、葉はサラダやサンドイッチとして使用します。タケノコやタラの芽は、春の味覚の代表です。煮物や炊き込みご飯などで、独特の歯ごたえと香りを味わいます。春は花見の季節で、花見と言えば桜見物を指します

子ども歳時記

日本には季節にちなんで行われる行事や風習が数多くあります。それぞれに理由や目的があり、人々の願いが込められています。

が、奈良時代には観梅が好まれました。桜が花見の主役となったのは平安時代からで美しさを詩歌でさかんに表現しました。江戸時代になると

多くの人が桜の下につどい花見弁当、花見団子、桜餅、酒などを飲食しながら見物するようになり、ぎやかに楽しみました。

尼崎では西武庫交通公園、尼崎の庄下川沿いの桜も見事に咲き誇り落ち着いた散歩道にもなっています。日本からアメリカに1912年、両国の友好関係を祝うためワシントンへ3020本の桜が贈られています。1915年に尼崎市の木、花でもあるハナミズキが返礼として送られてきました。街並みを色どり、赤いかわいい実をつけます。

住環境コーディネーター
引地 春美

子育て親育ちエッセンス

子育てサークル『やんちゃんこ』
代表 濱田 英世



パパ、ママお互い協力し合って
育児を楽しみましょう！

1999年に男女共同参画社会基本法が公布されました。この男女共同参画社会の理念には、女性の社会進出を推進する一方で、男性も家事を応分に負担すべきであるという原則があり、男性による子育てへの関与のしるべき社会的責務として推奨されているものです。

そして、2010年頃からは「イクメン」の語感を踏襲し、「イクメン＝育メン」という子育てに熱心な男性を父親像とする合成語がどんどん普及してきました。

これを受け、厚生労働省も「イクメンプロジェクト」を発足させ、パパ・ママがそれぞれに育児休暇を取りやすくできるように「育児・介護休業法」も改正されたのです。

男性も育休が取れて、女性の育児負担を減らすことで、子どもを取り巻く環境や家族のあり方も変わっていくことでしょう。今まで、ママ一人で頑張ってきた子育てもパパと一緒に楽しみながらできれば、ゆとりも生まれてきますよね。

会社の応援も必要であり、社会全体も男性が育休を取ることが普通だと確実に変わってきていると感じます。

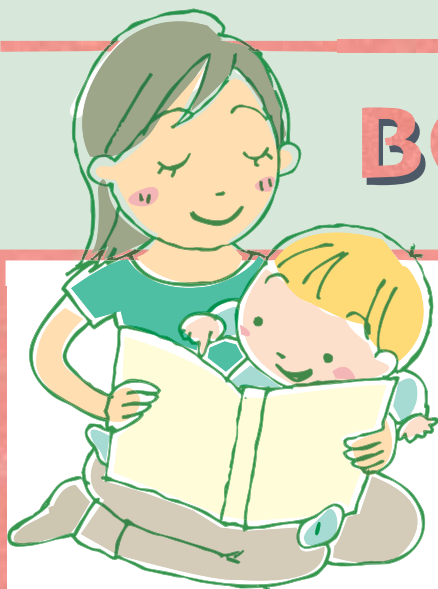
尼崎市内のつどいの広場にも、パパが遊びに来てくれることが多くなりました。“いつも子どもが遊びに行っている所を知りたくて来ました”とか“他のパパと子育てについて話ができるので楽しいです”という声を聞き

ます。また、ママが美容院に行っている間にお子さんを連れて遊びに来てくれるパパや、じっとしていない子どもの相手をしながら“これは毎日ママは大変だなあ”と実感してくれたパパ、真剣に子育てについて相談をされるパパもおられます。

そのようなパパに出会うと、私はいつも「ありがとう」と伝えます。パパも一体何をしたらよいのか分からないと言われるのですが、**いつも頑張っているママのことをわかってくれて「ありがとう」**なのだと思います。子どもに対して、かわいいけれど時にはイライラ・ハラハラすることもある。それを理解してくれて、フォローしてくれたら、それが一緒に子育てしているということなのですから。

全て、**ママと同じことをすることが「育メン」ではない**と思うのです。もちろん、パパの役割、ママの役割があって当然です。役割分担しながら子どもに接すると上手くいくことがあります。パパが叱ったら、ママが間に入るようにして、子どもにどうしたら良いのかを説明してパパにごめんなさいしようとか道徳教育が成立する！とか、パパのご飯美味しいね、ママの本読み楽しいねと言いながら尊敬・敬愛の気持ちが育つ！等々・・・

パパもママも無理せず、お互いのできることを協力しながら、これからも家事育児をうんと楽しんでください！



BOOK! BOOK! BOOK!

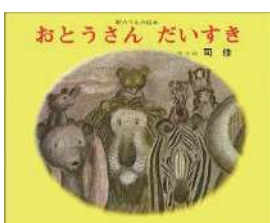


おうまさんしてー!

三浦 太郎／作

こぐま社

子どもたちの大好きな
「おうまさんしてー!」



おとうさんだいすき

司 修／作文 絵

文研出版

どうぶつの子どもたちは、おとうさんの
自慢話
でもくまくんだけは元気ありません



パパ、お月さまとって!

エリック・カール／作

もり ひさし／訳

偕成社

「お月さまと遊びたいな」と思った
モニカは お父さんにお願いします



「えいっ」

三木 卓／作

高島 純／絵

理論社

くまの親子が町へおでかけ
お父さんが「えいっ」と
となえると...



あいたくなっちゃったよ

きむら ゆういち／作

竹内 通雅／絵

ポプラ社

子ねずみをお父さんやまねこが食べ
ようとしたとき、見るからに弱そうな
お父さんねずみが現れます



ピッツアぼうや

ウィリアム・スタイグ／作・絵

木坂 涼／訳

らんか社

雨で外へ出られないピートは
ご機嫌ななめ お父さんはピートで
何を作ったでしょう



『あまがさきキッズサポーターズ』とは?

私たち「あまがさきキッズサポーターズ」は、尼崎で子育てに奮闘しているお父さんやお母さんを応援する自主的な活動グループです。

メンバーは、市内在住の主婦、会社員、そして子育て未経験組から卒業組まで、立場も年齢もさまざまな10名ですが、尼崎の子育て事情をよりよくしたい!という思いは同じです。

その活動の一つが「地域の子育て支援に関する活動・イベントの情報収集」であり、その発信をするのがこの冊子「ビギナス (begin+us=私たちから始めましょ!)」です。ビギナスの制作では、企画から取材、編集、データ作成まで、毎回試行錯誤しながら、すべてを自分たちの手で行っています。一生懸命作ったこの冊子を、一人でも多くの方に読んでいただければ幸いです。



尼崎市子育て情報発信サイト AMANISM with Kids(令和6年10月開設)

尼崎市の子育て情報を知ることができる**尼崎市子育て情報発信サイト**
[AMANISM with Kids]ができました！



尼崎市で「働くこと」も「子育て」も応援するまちとして、子育て・ファミリー世帯向けに、まちの魅力や子育て支援の取り組みが分かりやすく紹介されています。



尼崎市の
子育て
情報満載
です！



ビギナスはどこでもらえるの？

公立保育所、私立幼稚園、市立幼稚園、保健所、北部・南部保健福祉センター、市民課、各サービスセンター、すこやかプラザ、つどいの広場、各生涯学習プラザ、各総合センター、中央・北図書館、各地区体育館、子育てサークル、子育て情報コーナー、教育・障害福祉センター、たじかの園、女性センタートレピエ、歴史博物館、児童家庭支援センターキャンディ、尼崎信用金庫の尼崎市内の店舗などのほか、キッズサポーターズが直接お願いしている場合もあります。

おことわり

本誌中の店舗・施設については、キッズサポーターズが子育て関連の情報を収集する中でご協力をお願いし、ご承諾をいただいた上で掲載しているもので、営利目的ではありません。

発行日 2025（令和7）年3月

編集・発行 あまがさきキッズサポーターズ

お問い合わせ 尼崎市役所 こども福祉課

TEL：06-6489-6349

FAX：06-6482-3781

ama-kodomo-support@city.amagasaki.hyogo.jp

660-8501 尼崎市東七松町 1-23-1

編集後記

我が子は27歳と23歳です。ビギナスの取材をするたびに、今まで知らなかったことを教えていただいています。育児真っ最中に知っていたら、もっと楽に子育てできたかも？と思ってしまいます。今、子育て中のみなさんが、少しでも楽に楽しく子育てできますように…（K.F）